

## 人体に関係のある部首

**欠** **欠** **欠**は、口を大きく開いた人の形を表わしたものです。だから、“あくび”という名があります。部首としては、“口を開く”“あくびする”という意味に使われます。

**次**は、**二**と**欠**との会意形声字で、音は**二**です。二番めで結構、とだらけた気持であくびしている状態を表わした字です。“つぎ”という意味になります。次官、次男。

**欧**は、**区**(**嘔**)と**欠**との形声字。“**おうおう**”と言って、食べた物を口から吐き出す”のが本義。「欧州」「欧米」は仮借による用法です。「嘔」と同音同義。

**吹**は、“口を開いて、口から息をふき出す”という意味の会意字。音は**スイ**。吹奏。

**飲**は、“口を開いて、食べ物をのみこむ”という意味の会意字。音は**イン**。飲酒。

**歌**は、“口を開いて、よい声(可)を出す”という意味の会意形声字。歌唱。

**見** **見** **見**は、**目**と**人**との会意字で、人が目で“みる”という意味の字です。見学。

**視**は、祭祀の意味の**示**と**見**との会意形声字で、音は**示**。儀式に手落ちのないように、“注意深くみる”という意味の字です。視察、注視、看視。

**覚**は、学の意味の**見**と**見**との会意形声字で音は**見**。見てよく学べば“わかる”し、また“おぼえる”こともできます。「自覚」は“わかる”“さとり”の意味です。

**親**は、**辛**と**木**と**見**との会意形声字で、親が本字。木は人の住む所なら、どこでも見ることのできるものです。“見なれたもの”という意味の字で、“したい”が本義です。人間関係で、最も見慣れており、最も親しいのは、“おや”です。“おや”は転注。親愛、親族。

**覧**は、監の意味の**監**と**見**との会意形声字です。“高い所から見おろす”“身分の高い人がごらんになる”という意味の字です。天覧、御覧、遊覧。

**規**は、コンパスの象形の**夫**(**宀**)と**見**との形声字で、“円をえがく器具”のことです。見の音は“き”と“えん”とに分けることができます。見

=規十円。

心

心は、心臓の象形で、“心臓”が本義。転じて“精神作用をつかさどる<sup>ココロ</sup>”という意味に使われます。心

配、心理。

念は、<sup>今</sup>の<sup>心</sup>という意味の会意字です。現在、ああしたい、こうしたいと考えている心ということです。念願、専念、雑念。

志は、<sup>志</sup>が古体です。<sup>之</sup>は之(行く)の古体で、“活動状態にはいった心”を<sup>志</sup>と言うのです。“こころざし”。闘志、大志。

忠は、“真心”という意味の字で、<sup>中</sup>と<sup>心</sup>の会意形声字です。忠実、忠誠。

思は、<sup>心</sup>で、<sup>心</sup>と<sup>心</sup>との会意形声字です。<sup>心</sup>は脳の本字です。脳と心臓とが、人間の思考活動をつかさどるということで、組み立てられたものです。思想、意志。

忍は、<sup>心</sup>を<sup>刃</sup>物で突き刺されるような思いにも“たえしのぶ”という意味の字で、<sup>心</sup>(呉音。漢音はジン)と<sup>心</sup>との会意形声字。

忘は、“心をうしなう”という意味の字で“わすれる”ことを表わしています。<sup>亡</sup>(失う)と<sup>心</sup>との会意形声字。忘恩、忘年。

忙は、“忘れるほど<sup>いそがしい</sup>”という意味の字です。<sup>忘</sup>と同じく、<sup>亡</sup>(失)と<sup>心</sup>との会意形声字です。多忙、忙殺。

性は、“<sup>生</sup>まれつきの心”という意味の字で、「天性」「本性」「性格」などと使われる字です。<sup>生</sup>と<sup>心</sup>との会意形声字。

恥は、<sup>耳</sup>から入って<sup>心</sup>に痛く感ずるという意味で、“はずかしい”ことを表わしました。<sup>耳</sup>音は耳。恥辱、無恥厚顔。

悟は、<sup>吾</sup>と<sup>心</sup>との会意形声字。“<sup>吾</sup>を正しく<sup>心</sup>に写し出す”ことです。肉眼が自己の肉体を見ることができにくいように、自己の心はわかりにくいもの。その心をはっきりと明らかにするのが“さとり”です。悟得、覚悟。

患は、<sup>串</sup>(カン)(<sup>くし</sup>で<sup>貫</sup>く象形)と<sup>心</sup>との会意形声字で、“心を突き刺されるような思い”という意味の字です。“うれしい”。転じて“病気にかかる”ことに使われます。内憂外患、患者。<sup>串</sup>は、食べ物にくしをとおすこと、<sup>貫</sup>はお金(貝)の穴にひもをとおすこと。言葉としてはどちらも同じカンです。

惜は、“<sup>昔</sup>を思う<sup>心</sup>”という意味の、<sup>昔</sup>と<sup>心</sup>との会意形声字です。過ぎし昔のことはなつかしく、美しいもの“なつかしむ”“いとおいしい”こと

です。愛惜。

**想**は、“よく見る”意味の相と<sup>ソウ</sup>心との会意形声字です。実際の様子を眼前に見るように、心にありありと“思いえがく”ことです。想像、回想、思想、感想。

**愁**は、“秋の心”という意味の、秋と心との会意形声字です。「枯れ枝に鳥のとまりけり秋の暮」何とはなしに、物のあわれを感じるのが“秋の心”です。“うれい”哀愁、旅愁。

**意**は、声<sup>イン</sup>音の意味の音と心との会意形声字で、音は、音がつまってイ。心に思っていることが「よしやろう」という声になって出る状態になった心を<sup>イ</sup>意と言います。意志、決意、意見。精神活動の本体が「心」であり、刺戟に対して心が活動し始める状態が「志」であり、判断がついて行動に移ろうとする状態まで高められたのが「意」です。

**慎**は、“心に悪や油断が生じないように<sup>ツツシム</sup>”という意味の、**真**と心との会意形声字です。言葉をつつしむのが謹、心をつつしむのが慎です。謹慎、慎重。

**慈**は、草の<sup>シ</sup>滋る意味の<sup>ジ</sup>茲と心との会意形声字で、草に水をやり、育て“いつくしむ”心を言います。「慈愛の心が草本にまで及ぶ」というの

が慈の本義です。慈悲、慈善。

**慣**は、物事をやり抜きとおす意味の<sup>カン</sup>貫と心との会意形声字で、“一貫した行為によって生ずる<sup>ナレ</sup>”を表わした字です。慣習、慣例、慣性、慣用。

**憶**は、<sup>おも</sup>う意味の<sup>イ</sup>意にさらに心を加えて、“長く思う”意味を表わした会意形声字です。記憶、追憶。音のオクは、okuではなくて、ok、つまり、今の表記で言えば、オッであって、熟語の組み合わせ方によってはongになり、onに近いのです。音は漢音がイン、呉音がオンですが、「イ←イン→イク」、「オ←オン→オク」で、これらは発音の現実では、ほとんど同じに聞こえるのです。「<sup>イ</sup>意」と「<sup>オク</sup>憶」とではまるで、縁がないように見えますが、現実で通じ合う音なのです。

**憧**は、いつも心が外に向かっている、他を“あこがれ”ている<sup>ドウ</sup>兒童の<sup>心</sup>を表わした、<sup>童</sup>と心との会意形声字です。憧憬。

**惑**は、“もしかしたら”という意味の<sup>ワク</sup>或と心との会意形声字です。“疑いを抱く”という意味の字で“まどう”こと。惑乱、迷惑、誘惑。

**惰**は、墮(地に落ちる)の意味の<sup>ダウ</sup>惰と心との会意形声字で、“墮落した心”という意味の字です。“怠ける”“おこたる”こと。怠惰、惰性(現

状を打開して向上しようという気持ちに対して、現状維持の気持ちのこと)。

**悩**は、**腦**と**心**との会意形声字です。**囟**は頭脳の象形の**囟**に髪の毛を加えた形です。心や頭を使うということで、“なやむ”意味を表わしています。苦悩、煩惱。

**肉 月** **肉**は、獣肉のきれの象形です。“食肉”が本義ですが、部首としては、多く、肉体の名称に使われています。

胃は、**胃**で、**胃**は、胃に食べ物が入っている象形です。

肩は、肩の象形である**戶**と**肉**の会意字。肩を軸として腕が戸のように動く意味にも取れます。

**腕**は、宛曲の意味の**宛**と**肉**との会意形声字で、曲げたり伸ばしたりできる“うで”を表わしました。音は宛の変化した**ワン**。

**肝**は、幹の意味の**干**と**肉**との会意形声字で、“根幹にあたるような大事な臓器”という意味の字です。「肝腎」は、肝臓と腎臓のことで、どちらも重要な臓器なので、“重要”という意味に使われます。

**胸**は、**匈**と**肉**との会意形声字。匈は、包む意味の**勹**(第2章の包参

照)と**凶**の形声字で“心臓や肺を包むところ”の**むね**を表わしたものです。

**脈**は、川の分派する形を表わした**脈**(**𣶒**で派の本字)と**肉**の会意形声字で、“血液が分派して流れる血管”のことです。動脈。静脈。脈の音は、漢音がハ、呉音がマ。これがつまって発音される場合、昔はこれをハク、マクと表記したもので、haku、maku と読んだものではありません。ミヤクはマクのなまりです。

**胴**は、筒の意味の**同**と**肉**との会意形声字で、“肉体の筒状をしたところ”という意味の字です。胴体。

**胎**は、“始まる”の意味の**台**と**肉**との会意形声字で、“母体の中に新しい生命が始まる”ことを表わした字です。「妊娠」と同義です。転じて「子宮」の意味に使われます。母胎、胎内。si は ti に最も変化しやすい音です。ti はタイとも発音されます。始と胎とはもとは同音なのです。詩と待との関係と同じです。

**肺**は、音の意味の**市**(市とは異字、沛然の旁と同字)と**肉**との会意形声字です。音(第2章の■を参照)の“二つに分ける”という意味によって“左右二つに分かれている臓器”を表わしたものです。

骨 骨

**骨**は、ほねの象形<sup>骨</sup>と<sup>肉</sup>との会意形声字で、“筋肉の付いたほね”が本義の字。音は<sup>カ</sup>の变化したコ

ツ。「骨格」、「骨子」は“ほね”ぐみの意味で“輪郭”“要点”という意味に使われます。

**髓**は、付随の意味の<sup>ズイ</sup>道と<sup>骨</sup>との会意形声字で、“骨に付随している、骨の中に充滿している脂肪状の物質”のこと。“骨の内部”。脊髓。転じて、“物事を中心となる大切な所”という意味に使われます。心(神)髓、精髓。

歹 歹

**歹**は、<sup>人</sup>がくずれた<sup>白</sup>です。肉体が死んで骨がばらばらになった状態を表わした字です。「一夕扁」と言

います。“死”に関する意味を持った部首です。

**死**は、人の倒れて死んだ形の<sup>匕</sup>と<sup>歹</sup>との会意字で、“人が死んで骨となる”意味の字です。

**歿**は、水中に隠れる意味の<sup>ボツ</sup>没と<sup>歹</sup>との会意形声字で、“死ぬ”ことを表わしています。死歿。

**殊**は、血を意味する<sup>シュ</sup>朱(あけ=赤)と<sup>歹</sup>との会意形声字で、“朱に染まって死ぬ”という意味の字で、“斬刑”が本義です。首と胴体とが“切

り離される”刑なので、“ことにする”という意味から転じて“ことなる”“ことに”(特別に)という用法が生まれました。特殊、殊勲。

**殉**は、順の意味の<sup>ジュン</sup>旬と<sup>歹</sup>との会意形声字で、“人の死に順って死ぬ”ことです。殉国、殉死。

**殖**は、木をふやす意味の“植”にならって“人をふやす”意味の字として作られたもの。<sup>シヨク</sup>歹と<sup>植</sup>との会意形声字。殖民。生殖。転じて、動物や財貨をふやすのにも用います。繁殖、貨殖、殖産。

**列**は、骨から肉を“切り離す”意味の会意字です。“わける”が本義で、転じて“ならべる”という意味に使われます。行列、整列。